

「鯨っ子学習」第6学年実践記録②

報告者 立石 耕一

I 本資料の目的

先の「鯨っ子学習」第6学年実践記録①では、鯨っ子学習において記述と推敲を意識するために、自分の学びを可視化する「ラーニングマップ」を活用した実践について報告をした。本資料では、抽出児の記述と推敲、そのものに着目する。

- | |
|--|
| ① 抽出児（C児）の第5学年と第6学年の鯨っ子学習の発表内容（言語化）の変容 |
| ② 鯨っ子学習におけるゴールに対する振り返りを行う際に活用した観点と尺度 |

II 抽出児（C児）の第5学年と第6学年の鯨っ子学習の発表内容（言語化）の変容

C児は、5年時の鯨っ子学習から、「グラフや思考ツールを使えるようになりたい。」と振り返っている。グラフや思考ツールに着目したC児がどのような変容が見られるのかを5年時と6年時で比較する。

1 5年時の発表内容を文字起こしした文（改行は報告者の意図である）

開発途上国の世界の子供達。5年2組〇〇〇〇。開発途上国とは、経済発展や開発の水準が先進国に比べて低く経済成長の途上にある国のことです。

開発途上国の国は、なんと約197カ国中138カ国もあります。その中に日本は入っていません。小学校に通えない子供の数は、サハラ砂漠より南のアフリカでは女子の方が多く、南アジアでは男子の方が多く、それ以外の地域では男子の方が多いです。学校に行けない理由として、学校が遠くて通えない。先生がいない。教室や学用品が足りない。家の手伝いや家計を助けるために働かなくてはならず、学校に行く時間や余裕がない。女の子は学校に行くより家の手伝いをしたり早く結婚したりすることが大切だと考えられている時期があることです。もしも学校に行けなかったら、文字も読むことができない。自分の名前も書けない。簡単な計算ができない。学校の友達と遊んだり、学びあったりできない。健康に生きるために必要なことがわからない。

SDGsについて貧困に関わることはない。質の高い教育を。みんなに安全な水とトイレを。世界中に生き甲斐も経済成長も住み続ける街づくりを。平和と公正をすべての人に、などがあります。募金でできることは年間150万人、約20秒に一人の子どもたちにワクチンがあれば、病気などを防ぐ防げます。調べた結果、貧困は他人事ではない。みんな学校に行けることは、当たり前とされていると思いますが、世界には学校に通えない人もたくさんいます。募金をする機会があったら募金をしたいと思いました。

2 6年時の発表内容を文字起こしした文（改行は報告者の意図である）

ユニバーサルデザインとはどのようなもので日常生活ではどのように使われているのか。6年1組〇〇〇〇。右のルービックキューブは目が見えない人に作られたルービックキューブで、この凹凸によって揃えることができます。左の手すりも目が見えない人がどこまであるのかわかるような印になっています。調べようと思ったきっかけは、3年生の時に特別支援学校に行ったとき障害者は、どのような生活を行っているのか気になったからです。また、学校公共物や街の中などにも障害者が使っているものがあり、どのような目的でどのように使われているのか気になったからです。

見通し、ユニバーサルデザインは障害者やお年寄りのためにある。また、その使っている人達が快適に生活できるよう工夫されている。

調べ方は、6年生にアンケートを取り、インターネットや本で調べる。ユニバーサルデザインはどこで誰によって作られたのか。1963年にデンマークでみんなが普通（ノーマル）に生活して行くノーマライゼーションを提案とされその考え方が広まり、1980年代にロナルド・メイスによってアメリカで作られました。

ユニバーサルデザインとはどういうものか。文化、言語、国籍、人権、年齢、性別、能力、障害などにかかわらず、いろんな人が利用できるものです。ユニバーサルデザインの7原則。1、誰にでも公平に利用でき。2、利用する上で柔軟性が高い。3、使い方が簡単で分かりやすい。4、必要な情報が理解しやすい。5、ちょっとしたミスが危険につながらない。6、身体への負担が少なく力がなくても楽に使用できる。7、誰にでも使える十分な広さと大きさ。

次にアンケート結果についてです。二つ目のアンケートは、ユニバーサルデザインは誰のために作られているかというアンケートです。45%が障害者と答え、40%がみんなと答え、13%が高齢者と答え、2%が

その他と答えました。6年生100人に聞いたところ、多くの人が障害者と回答しました。もちろん障害者も入っていますが、その他の世界中のみんなが使えるように工夫されています。二つ目のアンケートでは日常生活ではどのようなものがあるかというアンケートです。あったものは点字ブロック、スロープ、左手で持つことができるはさみ、多目的トイレ、教科書のフォント、手すり、信号の音、エレベーター、字幕、文房具、シャンプーのボトル、角消しなどがありました。

まとめ、ユニバーサルデザインは誰でも使えるもので、七つの原則があり、障害者は45人で一番多く、多目的トイレや点字ブロックなど身近なものが多かった。また、1963年に作られたノーマライゼーションの考え方が広まったので、1980年代にアメリカで生まれたユニバーサルデザインは私たちも使っていることが多いということがわかりました。

3 考察

表1は、C児が5年時と比べて変わった点として述べているものである。

表1 5年時と変わった点

<ul style="list-style-type: none"> ・グラフを使ってより分かりやすくなった。 ・ほかの教科と関連づけること。 ・アンケートをたくさんの人に回答してもらって良い結果を出せた。 ・クラスからのアドバイスでより良い作品になった。 ・きっかけや見通しをしっかりと持つことができた。 ・習ったものが多くなった分、関係することが増えた。

2つの学年を比較し、C児が述べている変容点は、「課題ストック」「ラーニングマップ」「論を通した書き方」「知識の量が増える」といった要点を押さえたものである。分量も2倍近くになっており、増えた理由として、インターネットや書籍等で調べるだけでなく、アンケートによるデータ比較により、考察の幅が広がっていることも伺える。

Ⅲ 続っ子学習におけるゴールに対する振り返りを行う際に活用した観点と尺度

5年時に引き続き「課題ストック」に各自で調べたい・考えたいことを記入し残していく。ここをスタートとして始めていくことを考え、以下の評価基準を児童と共有している。

表2 単元導入時のゴールに対する評価規準

「続っ子学習」のゴール			
あなたが調べたい・考えたいことを「課題ストック」から選び、「ラーニングマップ」に沿って、レポートにまとめて、5年生に発表しましょう。			
レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
調べたい・考えたいことを課題ストックから選ぶことができるか。	伝えたいことを、思考ツールを使って整理することができるか。	ラーニングマップを活用して、自分の考えを整理しているか。	よりよい方向に修正し、新たな問いを持つことができるか。

表2にあるように、「課題ストック」と「ラーニングマップ」を柱に、思考ツールと新たな問いを求める評価基準を児童と共有している。また、安易にインターネットで調べて終わりにならないように、「思考実験」「実証実験」の必要性を伝えたり、「問いと答え」を明確にしてから資料を作成したりすることも押さえている。図1は、実際の児童がアンケート結果や実験結果などを、思考ツールを活用して整理している様子である。複数の思考ツールから、試行錯誤しながら、整理し最も分かりやすいものを提出している。



図1 児童が活用した思考ツールの一部

Ⅳ 結論

1年目の「課題ストック」の活用、2年目の「ラーニングマップ」の活用、それぞれの取り組みの中で、それぞれをつなぐ「ゴールと道しるべ」となる評価基準を共有していった。この部分の効果については、発達の段階に応じて、どのように関わりがあるかは今後の課題である。